

提供日 2014/2/

タイトル 「そして、つながる。—文化・劇場が持つチカラ—」シリーズ

ぼくたちの3年～写真展「生きる」から見えるもの～

担当 公益財団法人静岡県文化財団 企画制作課

連絡先 TEL 054(203)5714

静岡県文化財団

記者提供資料

「そして、つながる。—文化・劇場が持つチカラ—」シリーズ

「ぼくたちの3年～写真展「生きる」から見えるもの～」

～東日本大震災から3年。あの日とこれからを見つめる写真展、3/8 からグランシップで～

1 要旨

公益財団法人静岡県文化財団・グランシップでは、東日本大震災から3年が経つ今、改めて文化芸術や劇場が、地域の中でどのような役割や機能を担うのかを考える「そして、つながる。—文化・劇場が持つチカラ—」シリーズを開催します。

3/8からは、震災当時の記録写真やその後の復興に向けての人々の様子を捉えた写真などを展示する写真展が始まります。写真を通して、改めて当時の様子やこれからの未来について考える機会とします。

2 概要

区分	内容
展覧会名	「そして、つながる。—文化・劇場が持つチカラ—」シリーズ ぼくたちの3年～写真展「生きる」から見えるもの～
開催期間	2014年3月8日（土）～30日（日）10:00～17:00（入場は16:30まで／期間中無休）
会場	グランシップ 6階展示ギャラリー（静岡市駿河区池田79-4）
入場料	500円 ※28歳以下の学生、各種障害者手帳をお持ちの方は無料 ※グランシップ友の会会員、10名以上の団体、ジョイブ会員は450円、ルルカカード会員は475円
展示内容	<p>■プロローグ</p> <p>2011年3月11日を機に、日常の価値観さえも揺るがされた日本。壁新聞でその報道魂を日本中に知られることになった「石巻日日新聞」と、「静岡新聞」の3/11の前後の紙面を紹介。3年前のあの日、私たちはどんな日常を過ごしていたのかを振り返る。</p> <p>■写真展「生きる」</p> <p>日本写真家協会が2012年に、東京・仙台・ドイツにて開催した写真展「生きる」からの作品130点を展示。震災直後の被災地の現実を捉えた記録写真や、震災前の東北地方の風土を撮影した「ふるさと」の写真、被災後の困難から立ち上がり、懸命に復興に向かう人々の「生きる」姿を撮影した写真等。</p> <p>■3/11 キッズ フォト ジャーナル</p> <p>被災地である岩手・宮城・福島の子どもたちが見つめる「震災後」を写真と文章で世界に発信するプロジェクト。撮影された写真は、既存のマスコミや大人の目線とは異なる視点で未来を見つめている。写真に添えられたメッセージからは、子どもたちの素直な気持ちと、それを取り巻く現実を受け取ることができる。</p> <p>■桜ライン311</p> <p>岩手県陸前高田市の津波最高到達地点に10mおきに桜を植樹し、津波を後世に伝える活動を写真で紹介。</p>
主催	公益財団法人静岡県文化財団、静岡県、公益社団法人日本写真家協会
協力	特定非営利活動法人桜ライン311、3/11 キッズ フォト ジャーナル
後援	静岡県教育委員会、静岡市教育委員会、NHK 静岡放送局、静岡新聞社・静岡放送、テレビ静岡、静岡朝日テレビ、静岡第一テレビ、朝日新聞静岡総局、産経新聞社静岡支局、中日新聞東海本社、毎日新聞静岡支局、読売新聞静岡支局、K-mix

3 オープニング・ギャラリートーク

【オープニング式典】

3/8（土）9:30～10:00

グランシップ 6階展示ギャラリー前

※どなた様でもご参加いただけます。

【ギャラリートーク】

3/8（土）10:30～ 解説：後藤由美（3/11 キッズ フォト ジャーナル 代表）

14:00～ 解説：島田 聡（一般社団法人日本写真家協会 常務理事）

※参加無料（規定の入場料は必要）、予約不要



4 「そして、つながる。—文化・劇場が持つチカラ—」シリーズ

- ・3/8（土）～30（日） ぼくたちの3年～写真展「生きる」から見えるもの
- ・3/9（日） 第27回地域文化活動賞記念フォーラム『文化・劇場が持つチカラを考える』
- ・3/14（金） グランシップ寄席 一語・縁一
- ・3/16（日） さくら能
- ・4/12（土） バッハ・コレギウム・ジャパン「J. S. バッハ：《マタイ受難曲》」

5 取材申込・お問い合わせ

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

指定管理者：（公財）静岡県文化財団 企画制作課 電話 054-203-5714 （担当：渡邊、河合）